

環境活動レポート

レポート対象期間(令和3年10月～令和4年9月)

—2021年10月～2022年9月— 63期



株式会社 マゴオリ

長崎県佐世保市天満町 2 番 26 号

令和 5 年 3 月 28 日作成

目次

- ① 組織の概要
- ② 対象範囲
- ③ 環境方針
- ④ 環境目標
- ⑤ 環境活動計画
- ⑥ 環境目標の実績
- ⑦ 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取り組み内容
- ⑧ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- ⑨ 代表者による全体評価と見直しの結果

61期 2019年10月～2020年9月まで

62期 2020年10月～2021年9月まで

63期 2021年10月～2022年9月まで

①組織の概要

(1)事業所名及び代表者指名

株式会社 マゴオリ
代表取締役 馬郡 啓

(2)所在地

本社 : 長崎県佐世保市天満町2番26号
長崎支店 : 長崎県長崎市幸町3番19号

(3)環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

・環境管理責任者 小林 正隆
e-mail masataka@magoori.co.jp
Tel 0956-23-5381 Fax 0956-22-3340

林 大介
e-mail hayashi@magoori.co.jp
(支店) 095-826-4271 Fax 095-826-4273

・担当者 馬郡 渉
e-mail shoh@magoori.co.jp

(4)事業内容

- ・OA機器・事務用品販売
- ・各種プリント業務
- ・コピー・複合機メンテナンス

(5)事業の規模

(全社合計)

(61期) : 1,462,281 千円

(62期) : 1,420,253 千円

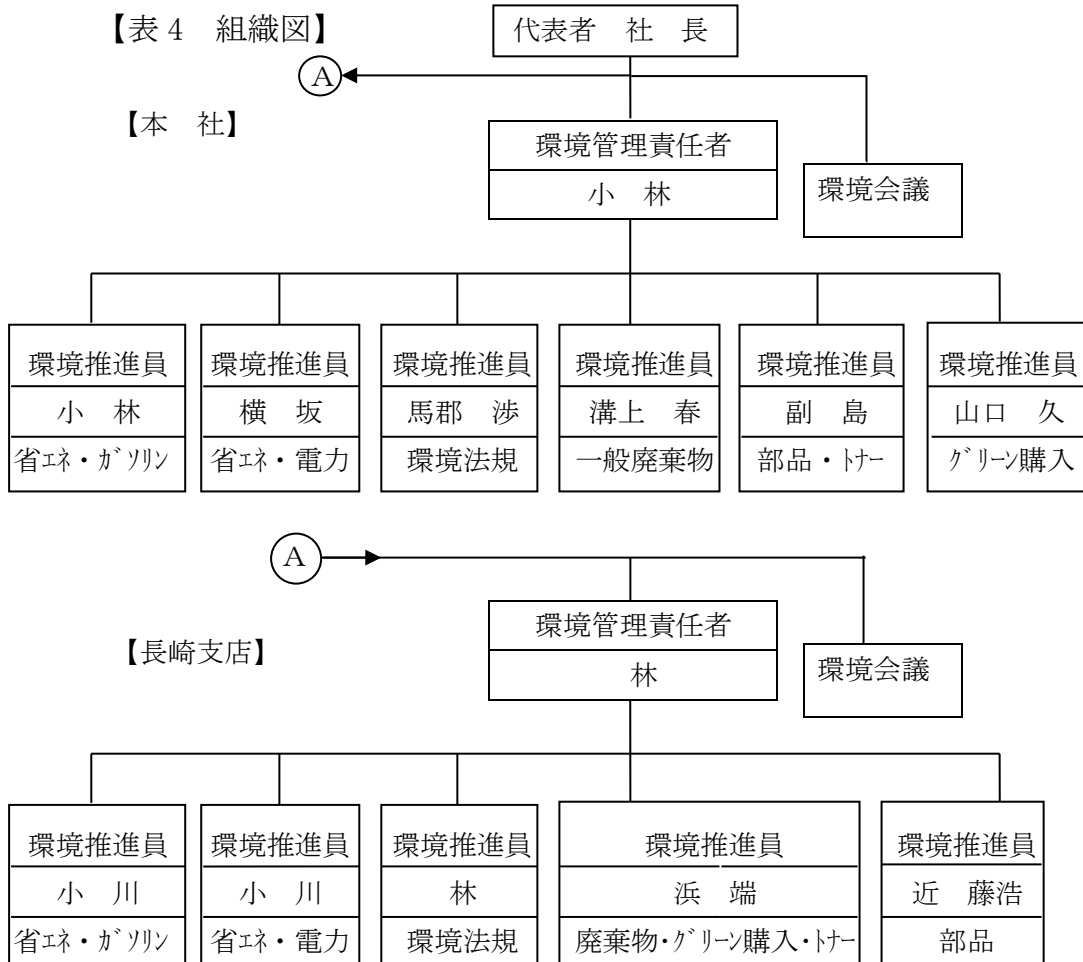
(63期) : 1,449,382 千円

総従業員数 76名

(6)環境管理推進の組織図

当社が、事業活動を行う上で環境管理を推進するための組織図を【表4】に示します。

【表4 組織図】



②対象範囲

(1). 認証・登録の対象とする組織

本 社 : 長崎県佐世保市天満町 2 番 26 号

長崎支店 : 長崎県長崎市幸町 3 番 19 号

戸籍グループ : 長崎県佐世保市八幡町 1 番 10 号

水道グループ : 長崎県佐世保市八幡町 4 番 8 号

■戸籍グループ・水道グループに縮小する。

■全活動を認証・登録の対象範囲としている。

(2). 対象とする事業活動

事務機器の販売・メンテナンス及びプリントサービス・委託業務

③環境方針

環境方針

株式会社 マゴオリは、商品を売るのではなく、お客様が十二分に商品を使っただけを、会社の使命とし、環境問題についても全社をあげて積極的に取り組む。

- 1、 当社は、お客様に提供する製品及びサービスだけでなく、企業としてあらゆる活動においても環境に配慮した企業活動を目指す。
- 2、 社会の環境に配慮し、環境負荷低減の継続的改善に取り組み、汚染の予防にも努める。
- 3、 環境関連法規、条例等を遵守し、自らの責任において環境負荷低減の目標を設定し、その実現に努める。
- 4、 グリーン販売・購入、及びリサイクルを含むエネルギーや資源の有効利用、廃棄物の削減に取り組み、かつその内容を定期的に見直しする。
- 5、 化学物質の適正な管理をいたします。
- 6、 本方針を含む環境マネジメントシステムを文書化し、環境教育を通じ全従業員に周知し、環境保全活動を遂行できるように啓発を行なう。
- 6、 本方針は、一般の方から要求があれば、配布する。

2022年 12月 1日

株式会社 マゴオリ

代表取締役 馬郡 啓

④環境目標

環境への負荷の状況（取りまとめ表）

環境への負荷		単位	61期	62期	63期	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	68,132.9	64,882.9	73,318.0	
	()	kg-CO ₂				
	()	kg-CO ₂				
② 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	(リサイクル)	kg	2,016.6	2,201.2	1,658.4
		(燃焼)	kg	927.3	949.1	873.5
		最終処分量	kg			
	産業廃棄物	(リサイクル)	kg	289	273	245
		(焼却(プラ))	kg	280	273	245
		最終処分量	kg	0	0	0
③ 1 総排水量	公共用水域	m ³				
	下水道	m ³	256	257	261	
④ 2 水使用量	上水	m ³	256	257	261	
	工業用水	m ³				
	地下水	m ³				
② 化学物質使用量		ℓ	15.0	15.0	15.0	
		kg				
		kg				
③ エネルギー使用量	購入電力（新エネルギーを除く）	kWh	62,169	64,665	71,318	
	化石燃料	ℓ	20,069	17,793	19,692	
	新エネルギー	MJ				
	その他	MJ				
④ サイト内で循環的利用を行っている物質量等	利用された物質量	kg				
	水の利用量	m ³				
⑤ 総製品生産量または総商品販売量	製品生産量等	t				
	環境負荷低減に資する製品等	千円	1,462,281	1,420,253	1,449,382	
	容器包装使用量	t				

【表1 環境目標】

- ① 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮
環境対策商品販売の63期は、63期目標を上回る事とする。

項目	単位	62期	63期	3カ年目標 (2021~2024年) (62期10月~翌年9月)
環境配慮型商品の販売	千円	1,462,281	1,500,000	64期まで

※但し、営業目標に関しては、不適合の場合でも是正処置は必要としない。

- ② 二酸化炭素排出量削減の推進

二酸化炭素排出量の63期は、3カ年で62期実績を維持・管理する。

項目	単位	62期基準年	63期	3カ年目標 (2021~2024年) (62期10月~翌年9月)
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	75,102.1	維持管理	維持管理
電力消費量	kWh	64,468	維持管理	維持管理
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	22,118.8	維持管理	維持管理
燃料油消費量	L	25,782.6	維持管理	維持管理
二酸化炭素換算量	kg-CO ₂	52,983.2	維持管理	維持管理

※九州電力の二酸化炭素排出係数は63期の62期の排出係数0.365 Kg-CO₂を使用する。

1リットル当りの走行距離の延長と運搬量の増加に努めます。

- ③ 一般廃棄物の維持管理・リサイクル活動の推進

一般廃棄物排出量の63期は、3カ年で62期実績を継続、維持する。

項目	単位	62期 基準年	63期	3カ年目標 (2021~2024年) (62期10月~翌年9月)
再生利用	kg	2,564.2	維持管理	現状維持
単純焼却等	kg	1,270.0	実績の把握	実績の把握を継続する

④ 産業廃棄物の削減・リサイクル活動の推進

産業廃棄物排出量の63期は、3カ年で62期実績を継続、維持する。

項目	単位	62期 基準年	63期	3カ年目標（2021～2024年） （62期10月～翌年9月）
再生利用	kg	394	維持管理	維持管理
廃棄物最終処分量	kg	374	維持管理	維持管理

⑤ 節水活動の維持

63期は、3カ年で62期実績を維持、管理する。

項目	単位	62期	63期	3カ年目標（2021～2024年） （62期10月～翌年9月）
水使用量	m ³	249	維持管理	維持管理

⑥ 学物質使用量の削減・・・化学物質（PRTR対象物質）を使用している場合・・・

63期は、消費量を管理する。

項目	単位	62期	63期	3カ年目標（2021～2024年） （62期10月～翌年9月）
化学物質使用量	本	10.5	データ収集管理	データ収集・管理

※エチルアルコールの適正管理。

⑤環境活動計画

取組項目	長期目標	単年度目標	担当者	責任者	取組内容
電力消費量削減	維持・管理	維持・管理	横坂 / 小川	環境保全関係 責任者 小林 正隆	① 昼休み及び不在時の照明消灯（晴天時） ② 未使用時のパソコンの電源 OFF ③ 室内空調は、夏期は 28℃、冬期は 21℃以下に設定
エコドライブの推進	維持・管理	維持・管理	小林 / 小川		① 効率的な訪問ルートの設定 ② 社用車の効率的な運転の推進 ③ アイドリングストップの励行 ④ 定期的な車両整備の励行 ⑤ 走行距離と供給燃料量を記録する。
節水活動の推進	維持・管理	維持・管理	山口久 / 小川		①水道の蛇口を調節して、必要以上に使いすぎないようにする。 ②流しっぱなしにしない。 ③トイレの使用の際に注意して、水を使用する。
廃棄物の削減・リサイクル活動の推進	廃棄物の100%回収・管理。	廃棄物の100%回収・管理。	溝上春 副島 / 浜端 近藤		①紙使用量の削減 ・使用済みの封筒の再利用 ②社内購読の新聞などは資源ごみとして出し、再資源化率を向上 ③ ゴミの分別の徹底 ④ 再利用先の拡大 ⑤ 廃トナーの 100%回収 ⑥ 廃部品の 100%回収
化学物質の管理	データ収集・管理	データ収集・管理	副島 /近藤		① アルコールの在庫管理と、使用本数集計。

自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮	15億の目標	15億の目標	山口久 / 浜端		① 環境配慮型商品提案・販売。
-------------------------------	--------	--------	------------------------	--	-----------------

⑥環境目標の実績

評価の○：100%以上 △：99%～80% X：79%以下

- 1) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮
環境配慮型商品を63期は、63期目標値を上回る事とする。

項目	単位	62期実績値	63期目標値	63期実績値	達成率	評価
環境配慮型商品販売	千円	1,462,281	1,500,000	1,449,382	96.0%	△

- 2) 二酸化炭素排出量削減の推進

二酸化炭素排出量を63期は、3ヵ年で62期実績を維持、管理する。

項目	単位	62期基準値	63期実績値	達成率	評価
二酸化炭素総排出量	kg-Co2	64,882.9	73,146.3	—	△
電力消費量	kWh	64,665	71,318.0	90%	△
二酸化炭素排出量	kg-Co2	23,602	27,457.4	85%	△
燃料油消費量	L	17,793.2	19,692.9	—	△
二酸化炭素換算量	kg-Co2	41,280.2	45,688.9	—	△

九州電力二酸化炭素排出係数は2021年度の数値0.385 kg-CO₂ / kWh（補整後排出係数）を使用
1リットル当りの走行距離の延長と運搬量の増加に努めます。

- 3) 一般廃棄物の削減・リサイクル活動の推進

一般廃棄物排出量の63期は、3ヵ年で62期実績を維持、管理する。

項目	単位	62期基準値	63期実績値	達成率	評価
再生利用	kg	2,201.2	1,658.4	—	○
単純焼却等	kg	949.1	873.5	—	○

4) 産業廃棄物の削減・リサイクル活動の推進

産業廃棄物排出量の63期は、3カ年で62期実績を維持、管理する。

項目	単位	62期基準値	63期	達成率	評価
再生利用	kg	273	245	—	○
単純焼却等	kg	273	245	—	○

5) 節水活動の維持

水の使用量は、63期は、3カ年で62期実績を維持、管理する。

項目	単位	62期基準値	63期	達成率	評価
水使用量	m ³	257	261	98%	△

6) 化学物質使用量の管理・・・エチルアルコール

63期は、3カ年で62期実績を維持、管理する。

項目	単位	62期基準値	63期	達成率	評価
化学物質使用量	本	15.0	15.0	100%	○

⑦環境活動計画の取組結果とその評価、次期の取組内容

1) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮

環境配慮型商品は、63期目標値を上回る事とする。

項目	評価	次年度の取組内容
環境配慮型商品販売	目標に対して若干未達であった。	取組の強化・効率化。

2) 省エネルギー活動の推進

電力消費量を62期基準値に維持管理する。

項目	評価	次年度の取組内容
電力消費量	62期より減。更なる省電力に努める。	社員への告知。意識づけ。
二酸化炭素排出量	62期より減。省電力を心得ると削減できる。	社員への告知。意識づけ。

3) 自動車用燃料の二酸化炭素排出量の削減

燃料油消費量を62期基準値に維持管理する。

項目	評価	次年度の取組内容
燃料油消費量	62期より減。適正に管理されている。	社員への告知。意識づけ。
二酸化炭素換算量	62期より減。適正に管理されている。	社員への告知。意識づけ。

1リットル当りの走行距離の延長と運搬量の増加に努めます。

4) 一般廃棄物の削減・リサイクル活動の推進

一般廃棄物排出量は62期基準値を継続、維持する。

項目	評価	次年度の取組内容
再生利用	分別・回収等良好。	現状維持。意識づけ。
単純焼却等	分別・回収等良好。	現状維持。意識づけ。

5) 産業廃棄物の削減・リサイクル活動の推進

産業廃棄物排出量は62期基準値を継続、維持する。

項目	評価	次年度の取組内容
再生利用	分別・回収等良好。	現状維持。意識づけ。
単純焼却等	分別・回収等良好。	現状維持。意識づけ。

6) 節水活動の維持

水の使用量は、62期より消費量を管理する。

項目	評価	次年度の取組内容
水使用量	コロナ対策の手洗いの徹底を推進し消費量が増える。	現状維持、意識づけ

7) 化学物質使用量の管理・・・エチルアルコール

62期より消費量を管理する

項目	評価	次年度の取組内容
化学物質使用量	日常のコロナ消毒に使用した為、消費量が増える。	継続維持

⑦ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並び

に違反訴訟等の有無と振り返り

環境関連法規への違反、訴訟等の有・無

関係法令について、過去に関係機関等からの指導、指摘等はありませんでした。

又、訴訟等も同様に1件もありませんでした。

弊社でも適用法令をチェックし問題ない事を確認しました。

随時見直しを行い、弊社の事業活動に適用される環境法規制・条例等の遵守に努めます。

リコーとの取り組みで、環境負荷を削減できる機能を備えた複写機を販売することにより、SDGs『13.気候変動に具体的な対策を』の達成に向けて63期は、全社で120台の複写機の販売が出来ました。

1台販売することにより、インドネシア・フィリピンでマングローブの植林が行われ、熱帯雨林を凌ぐCo2吸収量があります。

環境活動レポートの振り返り

項目として環境方針、環境目標、環境活動、環境目標の実績の変更の必要性では、環境目標の実績で評価が△であった未達成項目が目立ち、目標数値より上がった原因を追究し再発防止の設定を今後検討しムリ、ムラ、ムダを一人一人が徹底していく。他の項目の見直しはしない。

⑨代表者による全体評価と見直しの結果

例年に引き続き環境方針等に基づきグリーン商品の購入、エコドライブ、電力の削減等の環境負荷低減に取り組んでいます。

複合機の販売によるカーボンオフセットの認定も引き続き受けております。又、新たな活動として複合機 1 台の販売に対してマングローブ植林も行っております。「マゴオリの森」における植樹、地域清掃、ノーマイカーデーも引き続き行っております。上記の活動を基に長崎 SDG s 登録制度の認定も受けました。認定を受けることにより社内の意識も更に向上しました。

今後も、お客様、ビジネスパートナーを含めご協力をいただきながら環境活動の推進に努めていきます。

令和 4 年 3 月 28 日

株式会社マゴオリ 代表取締役 **馬郡 啓**

